

SYLLABUS

シラバス

令和8年度前期

作業療法士科 2年次

医療法人社団 慈恵会

神戸総合医療専門学校

作業療法士科 教育課程（令和8年度前期）

2年次

科目名	単位数	時間数	年次	時期	科目名	単位数	時間数	年次	時期
心理学	2	30	1	前期	身体障害評価学Ⅱ	1	30	1	後期
倫理学	2	30	1	前期	身体障害評価学Ⅲ	1	30	2	前期
物理学	1	15	1	前期	精神障害評価学Ⅰ	1	30	2	前期
生物学	2	30	1	前期	精神障害評価学Ⅱ	1	30	2	前期
医学英語	2	30	1	前期	身体障害治療学Ⅰ	1	30	2	前期
保健体育	1	30	1	前期	身体障害治療学Ⅱ	1	30	2	前期
情報処理演習	1	15	1	前期	身体障害治療学Ⅲ	1	30	2	前期
人間関係論	2	30	1	前期	身体障害治療学Ⅳ	1	30	2	後期
キャリア教育Ⅰ	1	15	1	後期	身体障害治療学Ⅴ	1	30	2	後期
キャリア教育Ⅱ	1	15	3	前期	身体障害治療学Ⅵ	1	30	2	後期
解剖学Ⅰ	2	60	1	前期	身体障害治療学Ⅶ	1	30	2	後期
解剖学Ⅱ	2	60	1	後期	身体障害治療学演習Ⅰ	1	30	2	前期
解剖学演習Ⅰ	1	15	1	前期	身体障害治療学演習Ⅱ	1	30	2	後期
解剖学演習Ⅱ	1	15	1	前期	精神障害治療学Ⅰ	1	30	2	前期
解剖学演習Ⅲ	1	15	1	前期	精神障害治療学Ⅱ	1	30	2	後期
解剖学演習Ⅳ	1	30	1	後期	精神障害治療学Ⅲ	1	30	2	後期
生理学Ⅰ	1	30	1	前期	発達障害治療学Ⅰ	1	30	2	前期
生理学Ⅱ	1	30	1	後期	発達障害治療学Ⅱ	1	30	2	後期
生理学Ⅲ	1	30	1	後期	高次脳機能障害治療学	1	30	2	後期
生理学演習	1	30	1	後期	日常生活活動	1	30	2	前期
運動学	1	30	1	前期	老年期障害治療学Ⅰ	1	30	2	前期
運動学演習Ⅰ	1	30	1	前期	老年期障害治療学Ⅱ	1	30	2	後期
運動学演習Ⅱ	1	30	1	後期	義肢装具学	1	30	2	後期
人間発達学	1	30	1	後期	福祉用具学	1	15	1	後期
内科学Ⅰ	1	30	1	後期	作業療法臨床技能演習	1	30	2	後期
内科学Ⅱ	1	30	2	前期	生活環境学	1	15	2	後期
臨床心理学	1	30	1	後期	地域作業療法学Ⅰ	1	30	2	後期
精神医学Ⅰ	1	30	1	後期	地域作業療法学Ⅱ	1	30	2	後期
精神医学Ⅱ	1	30	2	前期	職業関連活動	1	30	2	後期
整形外科Ⅰ	1	30	1	後期	見学実習	1	45	1	後期
整形外科Ⅱ	1	30	2	前期	観察実習	1	45	2	前期
一般臨床医学Ⅰ	1	15	2	前期	臨床評価実習	3	135	2	後期
一般臨床医学Ⅱ	1	15	2	後期	臨床実習Ⅰ	9	405	3	前期
神経内科学	1	30	2	前期	臨床実習Ⅱ	9	405	3	後期
病理学概論	1	30	1	後期	地域実習	1	45	3	前期
小児科学	1	15	2	前期	作業療法特論Ⅰ	1	30	1	前期
臨床栄養学	1	15	2	前期	作業療法特論Ⅱ	1	30	1	後期
臨床薬学	1	15	2	前期	作業療法特論Ⅲ	1	30	2	前期
リハビリテーション概論	1	30	1	前期	作業療法特論Ⅳ	1	15	2	後期
リハビリテーション医学	1	15	1	前期	総合作業療法学演習Ⅰ	3	90	3	前期
社会福祉学	1	30	1	前期	総合作業療法学演習Ⅱ	3	90	3	後期
地域ケア論	1	15	2	前期					
作業療法概論Ⅰ	1	30	1	前期	パラスポーツ特論(選択科目)	1	15	3	後期
作業療法概論Ⅱ	1	15	3	後期					
基礎作業学	1	30	1	後期					
基礎作業学演習Ⅰ	1	30	1	前期					
基礎作業学演習Ⅱ	1	30	1	後期					
作業療法管理学Ⅰ	1	15	2	前期					
作業療法管理学Ⅱ	1	15	2	後期					
身体障害評価学Ⅰ	1	30	1	後期					

令和8年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
内科学Ⅱ		講義	山本 翔太・大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>高齢社会を迎えた現在、作業療法が対象とする高齢者も多く、内科的疾患を有することも必然的に高くなる。内科的疾患の中でも作業療法場面でよくみられる循環器疾患、呼吸器疾患、糖尿病を始めとする内分泌代謝性疾患等について理解する。また、老化に伴う身体機能、運動機能、心理の変化とそれらが疾病の成立にどのように関与しているかを学習し、高齢者の特性を理解する。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 主な循環器疾患の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について説明できる。 2. 主要な呼吸器疾患の概念、病態生理、症状、検査、治療および予後について説明できる。 3. 代謝性疾患の病態と臨床的特徴を説明できる。 4. 免疫疾患の病態と臨床的特徴を説明できる。 5. 代表的な内分泌疾患の病態と臨床的特徴を説明できる。 6. 感染症の概念や感染経路、病態と臨床的特徴を説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	呼吸器の構造と生理機能、病因病態、主な症候【山本】			
2	肺感染症【山本】			
3	慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、間質性肺炎【山本】			
4	肺腫瘍、呼吸不全、肺性心【山本】			
5	血液の成分と生理、血液疾患の主な症候、検査法【山本】			
6	貧血、出血、血栓性疾患、白血病、DICなど【山本】			
7	代謝性疾患①：代謝に関する基本事項（ビタミン、酵素を含む）【大永】			
8	代謝性疾患②：代謝に関する疾患【大永】			
9	免疫疾患①：免疫に関する基本事項【大永】			
10	免疫疾患②：免疫反応による疾患について【大永】			
11	内分泌腺の解剖、生理と病態【大永】			
12	視床下部、下垂体の疾患について【大永】			
13	甲状腺、副腎機能異常による疾患について【大永】			
14	感染症の概念、各病原体の感染特徴、臨床症状、検査方法と診断方法【大永】			
15	細菌感染、ウイルス感染、真菌感染による疾患など【大永】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	筆記試験にて理解度を評価する		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第5版	前田眞治 編	医学書院		
PTOTST標準理学療法学・作業療法学・言語障害学 別巻 画像評価	宮越浩一 編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学 生理学 第6版	岡田隆夫 他	医学書院		
からだが見える 人体の構造と機能	医療情報科学研究所	メディアックメディア		
自由記載				
備考				
講義の順番は前後することがある。変更となる場合は随時掲示を行う。				

科目名		授業形態	担当教員名	
精神医学Ⅱ		講義	淡路 大致	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>統合失調症や気分障害など将来専門職として治療や支援させていただく機会が多い疾患についての理解を第一目標とする。 また現代のストレス社会において、精神疾患はより身近なものとなってきている。その他人が生きていくうえで陥る可能性のある様々な疾患についても、単に症状や障害を理解するだけでなく、そういった方々の生活の生きづらさなどについても理解できることを目指す。</p>				
授業の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医学の基本を理解し、個々の精神疾患について概要を理解できるようになる。 2. 代表的な疾患に関して治療法・本人や家族への支援について理解する。 				
授業計画				
回	内容			
1	統合失調症（成因・症状）			
2	統合失調症（症状・経過）			
3	統合失調症（経過・治療法）			
4	気分障害（うつ病）			
5	気分障害（躁うつ病）			
6	神経症性障害（不安・恐怖症及び強迫神経症）			
7	神経症性障害（ストレス関連障害及び身体表現性障害）			
8	てんかん			
9	パーソナリティ障害(B群のパーソナリティ障害)			
10	パーソナリティ障害(その他) / 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群（睡眠-覚醒障害群）			
11	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群（食行動障害および摂食障害群）			
12	精神作用物質による精神及び行動障害(依存症とは・薬物依存症)			
13	精神作用物質による精神及び行動障害（アルコール依存症）			
14	心理的発達障害（ASD）			
15	心理的発達障害（ADHD）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%			
レポート・課題				
小テスト	30%	授業開始時に行う。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準精神医学 第9版	尾崎紀夫 他 編集	医学書院		
こころの健康がみえる	医療情報科学研究所	メディックメディア		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
整形外科Ⅱ		講義	嘉納 綾・井上 直樹・中田 修	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
本講義は、整形外科疾病論の各疾患についての理解を深めることを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 神経・筋疾患を説明できる。 2. 炎症性疾患を説明できる。 3. 代謝・内分泌性疾患を説明できる。 4. 先天性骨・関節疾患を説明できる。 5. 骨・軟部腫瘍を説明できる。 6. 脊髄損傷を説明できる。 7. 退行性疾患を説明できる。 8. 循環障害と壊死性疾患を説明できる。 9. 切断および離断を説明できる。 10. スポーツ傷害、熱傷を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	神経・筋疾患：脳性まひ、筋ジストロフィー【中田】			
2	炎症性疾患：関節リウマチ、強直性脊椎炎他【中田】			
3	代謝・内分泌性疾患：くる病、骨軟化症他【中田】			
4	先天性骨・関節疾患【中田】			
5	骨・軟部腫瘍【中田】			
6	脊髄損傷①【中田】			
7	脊髄損傷②【中田】			
8	退行性疾患：骨粗鬆症、変形性関節症他【井上】			
9	循環障害と壊死性疾患①：四肢の循環障害、外傷による循環障害【井上】			
10	循環障害と壊死性疾患②：骨壊死【井上】			
11	循環障害と壊死性疾患③：骨端症【井上】			
12	切断および離断【嘉納】			
13	スポーツ傷害【嘉納】			
14	熱傷【嘉納】			
15	まとめ【嘉納】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	90%			
レポート・課題				
小テスト	10%	中田講師の講義で行う		
その他				
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科 第5版	立野勝彦・染矢富士子	医学書院		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版	野村巖 編	医学書院		
PTOTST標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 画像評価	宮越浩一 編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準整形外科学 第14版	井樋栄二 他編	医学書院		
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

令和8年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
一般臨床医学 I		講義	嘉納 綾・遠藤 宏和	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
この科目では、健康の概念を理解し、日常生活の中での健康の維持・増進を図るための健康管理及び疾病予防について習得する。 また、救急医学の概要を理解するとともに、医療現場で遭遇するであろう事故に対応するため、一次救命処置 (AEDの使用法を含む) について学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 健康と疾病の概念を説明できる。 2. 標準予防策について説明できる。 3. ライフスタイルと健康との関連について説明できる。 4. メンタルヘルスについて説明できる。 5. ストレスマネジメントの具体的方法を説明できる。 6. 臨床検査値から身体の変化について説明できる。 7. 救急医療体制について説明できる。 8. 一次救命処置の流れおよび心肺蘇生の方法を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	健康と疾病について 標準予防策について【嘉納】			
2	ライフスタイルと健康【嘉納】			
3	メンタルヘルスとストレスマネジメントについて【嘉納】			
4	健康指導について 健診結果の見かたについて【嘉納】			
5	救急医療体制と搬送システム【嘉納】			
6	AED 【遠藤】			
7	BLS 【遠藤】			
8	救急医療 【遠藤】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	50%	嘉納担当範囲		
レポート・課題	30%	遠藤先生担当範囲 評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	20%	講義内容についての自己学習で評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
Crosslink basic リハビリテーションテキスト リハビリテーション医学	上月正博・高橋仁美 編		メジカルビュー社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

令和8年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
神経内科学		講義	劉 兆権	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
概論及び各論を通して、神経内科学の基本概念及び基本知識を理解してもらうことを目的としています。				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・局在診断を説明できる。 ・代表的疾患の原因・症状・治療法・予後を説明できる。 				
授業計画				
回	内容			
1	神経系解剖生理学 (1) 神経の分類と機能			
2	(2) 伝導路と反射			
3	神経系病態症候学 (1) 意識障害			
4	(2) 運動麻痺			
5	(3) 運動失調			
6	(4) 高次脳機能障害1 失語症、失認			
7	(5) 高次脳機能障害2 失行、記憶障害、認知症			
8	小テスト			
9	神経疾患各論 (1) 脳血管障害			
10	(2) 脳腫瘍			
11	(3) 錐体外路の変性疾患 パーキンソン病			
12	(4) 末梢神経疾患1 顔面神経麻痺、ギラン・バレー症候群			
13	(5) 末梢神経疾患2 しびれ、周期性四肢麻痺			
14	神経疾患に多い合併症			
15	復習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	90%	局在診断を説明でき、代表的疾患の発症機序、症状を理解できる点を評価基準とする。		
レポート・課題				
小テスト				
その他	10%	疑問点や不明点について、積極的に質問し、活発に論議することを評価する。評価基準は自由記載欄のとおりとする。		
自由記載		講義中、毎回今まで説明した内容について、個々に質問するが、正解と思われる答えを必ずしも求めず、疑問点及び不明点を提起し、活発に議論することによって知識を深めることを評価基準とする。		
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学：専門基礎分野 神経内科学 第6版	川平和美	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
小児科学		講義	砂古口 雅子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
医療の進歩はめざましく、500g以下で出生した子ども達も延命できる時代となり、残念ながら障害が残る場合がある。従来であれば短命であった難病の子ども達も障害を持ちながら生存できるようになり、重症心身障害児や医療的ケア児は増加している。また、虐待や事故などで心を含めて障害を負うこともある。臨床現場で小児に携わるようになったとき、子ども達の障害の背景にある疾患についての理解を深められるようになること、親子関係を含めた小児の全体像を見ることができ、子ども達の生活障害を改善できる一助となることを目的に、授業を進める。				
授業の到達目標				
1. 小児の定型発達児の発育・発達の特徴を説明できるようになること。 2. 各種小児疾患の原因や病態について理解し、その特徴について説明できるようになること。 3. 1と2で得た知識をもとに小児の作業療法を実践するときの対応について説明できるようになること。				
授業計画				
回	内容			
1	小児科学概論（主に小児の成長・発育と定型発達について、原始反射と姿勢反射、療育と学校コンサルテーション）			
2	新生児・未熟児の概念と疾患（新生児仮死、未熟児、新生児・周産期異常症状など）			
3	先天異常と遺伝病（主に遺伝と病気について、染色体疾患など）			
4	復習と小テスト①			
5	神経・筋疾患①脳性麻痺（まひの分類と症状など）			
6	神経・筋疾患②中枢神経感染症、重症心身障害児と医療的ケア児について			
7	児童虐待、事故 その他			
8	総復習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	60%	終了試験の結果によって評価する		
レポート・課題				
小テスト	40%	問題を解答してもらい、その結果によって評価する		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学・作業療法学 小児科学 第6版	前垣義弘・小倉加恵子		医学書院	
自由記載	必要に応じて、参考資料はプリントにて配布する			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
写真で見る乳児の運動発達	木本孝子 他訳		協同医学出版社、1998	
ボバース概念の実践ハンドブック	紀伊克昌 他		パシフィックサプライ、2004	
自由記載	必要に応じて、紹介する			
備考				

令和8年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床栄養学		講義	三好 真琴・前重 伯壮	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>リハビリテーションを受けている患者さんには低栄養の人が多という報告がある。栄養管理をしながら作業療法を実施しなければその効果はなく、ずさんな栄養管理で行えば逆に悪化してしまう可能性もある。本講義では栄養学に関する基礎的な知識を習得し、栄養と健康維持・増進、介護予防及びリハビリテーションとの関連を理解することを目指す。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 栄養を食品面と生体面の双方から説明することができる。 2. 栄養がリハビリテーション効果に及ぼす影響を説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	生化学・栄養学に必要な基礎化学、栄養評価			
2	蛋白質とアミノ酸、酵素・ホルモン			
3	糖質、脂質			
4	ビタミン・ミネラル、消化と吸収			
5	主な病態の栄養管理、静脈・経腸栄養法、栄養と摂食嚥下			
6	褥瘡と栄養			
7	エネルギー代謝、運動と栄養			
8	リハビリテーションと栄養			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	身体内の物質の反応や栄養状態の知識について理解できているかを評価します。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
リハベリック生化学・栄養学 第2版	内山靖・藤井浩美・立石雅子 編		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床薬学		講義	大石 美恵	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>作業療法の対象となる人は、薬物治療を受けていることが多い。この講義では、薬についての基礎的な知識を学ぶとともに、主な疾患に対する薬物治療について理解を深める。薬物の作用や副作用、注意点を理解し、作業療法に活かせる能力を身につけることを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 薬の作用機序について説明できる。 2. 代表的な神経、筋作用薬、循環器治療薬、呼吸器治療薬について説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	臨床薬理学総論1			
2	臨床薬理学総論2			
3	感染・炎症の制御と薬物療法			
4	神経疾患の薬物療法			
5	精神疾患の薬物療法			
6	循環器疾患の薬物療法			
7	疼痛の制御と薬物療法			
8	注意すべき頻用される薬物/まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	薬の基礎的な知識、主な疾患に対する薬物療法についての理解を評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	予習・復習することを望みます。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
リハベリック 薬理学・臨床薬理学 第2版	内山靖・藤井浩美・立石雅子 編		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学 第7版	赤瀬智子 柳田俊彦		メディカ出版	
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
地域ケア論		講義	吉田 史朗	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けることができるように、地域の包括的な支援・サービス提供体制「地域包括ケアシステム」が構築されています。この講義では、地域包括ケアシステムについて学習し、地域における作業療法士の役割を考えます。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 地域包括ケアシステムについて説明できる。 2. 地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割を説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	地域包括ケアシステムについて			
2	医療と介護連携について			
3	在宅福祉サービスの実際			
4	地域を支える多職種とチームビルディング			
5	地域で活躍する多職種が作業療法士に期待すること			
6	地域ケア会議の実際			
7	グループワーク「地域包括ケアシステムの中で作業療法士ができること」			
8	発表とまとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	100%	評価基準は別途示す		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
作業療法管理学 I		講義	嘉納 綾	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
より質の高い作業療法を提供するためには、保健、医療、福祉に関する制度の理解、組織運営に関するマネジメント能力を養うとともに、作業療法倫理、作業療法教育についての理解を深める必要がある。そこでこの講義ではマネジメントについて理解し、作業療法士として必要な組織運営や医療安全に関するマネジメント能力を養うことを目指す。				
授業の到達目標				
1. マネジメントとは何かを説明できる。		5. 医療サービスのマネジメントについて説明できる。		
2. PDCAサイクルについて説明できる。		6. 医療安全のマネジメントについて説明できる。		
3. 組織の管理運営について説明できる。		7. 作業療法業務のマネジメントについて説明できる。		
4. 情報のマネジメントについて説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	作業療法におけるマネジメント			
2	組織の成り立ちとマネジメント			
3	情報のマネジメント			
4	作業療法と医療サービス			
5	医療安全のマネジメント			
6	作業療法業務のマネジメント① 人・物・経済性のマネジメント			
7	作業療法業務のマネジメント② 情報・時間・ストレスのマネジメント			
8	作業療法業務のマネジメント③ 実践からの学び			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	100%	講義終わりに行う課題の内容で評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他				
自由記載	再試験は筆記試験を行う。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
作業療法管理学 第3版	大庭潤平 編	医歯薬出版		
標準作業療法学 作業療法学概論 第4版	能登真一 編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害評価学Ⅲ		演習・講義	井上 直樹・大永 寛・山本 翔太	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
身体障害領域の作業療法評価の意義、目的、方法について学ぶ。具体的には評価の全体の流れ（検査・測定→統合と解釈→問題点と利点の列挙→目標の立案）、姿勢反射検査、上肢機能検査、協調性検査、摂食・嚥下機能検査、排泄機能検査、画像評価、日常生活活動の評価、QOL・興味・役割の評価、AMPS、COPMについて学ぶ。知識と技術の獲得と両者の統合を目指す。				
授業の到達目標				
1. 身体障害領域の作業療法評価で用いる検査・測定を列挙、説明、実施できる。 2. 評価結果を記録できる。 3. 統合と解釈、問題点と利点の抽出、目標の立案の流れについて説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	評価の全体の流れ①：作業療法実践の流れとSOAPの復習			
2	評価の全体の流れ②：観察記録の作成			
3	日常生活活動の評価①：日常生活活動の評価方法			
4	日常生活活動の評価②：BIとFIM			
5	日常生活活動の評価③：FIMについての詳細			
6	姿勢反射検査：姿勢反射の基礎と評価について			
7	上肢機能検査、協調性検査①：簡易上肢機能検査(STEF)の使用方法和グループワーク			
8	上肢機能検査、協調性検査②：簡易上肢機能検査グループワークの発表			
9	上肢機能検査、協調性検査③：失調症、巧緻性検査の使用方法和演習			
10	摂食・嚥下機能検査・排泄機能検査：嚥下機能の基礎と評価、排泄機能の基礎と評価について			
11	画像評価①：頭部の画像評価			
12	画像評価②：頭部以外の画像評価			
13	QOL・興味・役割の評価、AMPS、COPM①：QOLの評価、興味関心の評価について			
14	QOL・興味・役割の評価、AMPS、COPM②：AMPS、カナダ作業遂行モデル、COPM、模擬症例を用いたグループワーク			
15	まとめ：講義全体の振り返り			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	60%			
レポート・課題	30%	レポート課題の内容で評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト	10%	前回までの授業の復習として、ペーパーテストを授業内に随時実施する。		
その他				
自由記載	再試験は筆記試験の割合を100%として成績判定する。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
作業療法評価学 第4版	能登真一 他著	医学書院		
PTOTST標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 画像評価	宮越浩一 編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
脳画像 標準理学療法学・作業療法学・言語障害学 別巻	前田真治 著	医学書院		
作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド	吉川ひろみ 著	医学書院		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
精神障害評価学 I		演習・講義	淡路 大致	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
精神障害領域の作業療法で用いられる各種評価について学び、目的に合わせた評価を選択できることを目指す。				
授業の到達目標				
1. 精神科作業療法に必要な評価項目について、各項目の理解および説明することができる。 2. 精神科作業療法で用いられる評価について、目的別に列挙することができる。 3. 精神科作業療法で用いられる評価の構造・使用時の留意点などが説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	精神科作業療法評価の基礎			
2	面接			
3	面接			
4	観察			
5	症状評価尺度			
6	日常生活・社会生活評価			
7	クライアントとの協業的評価			
8	集団における評価			
9	認知機能評価			
10	作業遂行機能評価			
11	精神科作業評価における臨床思考			
12	精神科作業評価における臨床思考			
13	評価内容の記録と整理			
14	評価内容の記録と整理			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	到達目標の達成度で評価する		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 改訂第3版	山口芳文 編集	メジカルビュー		
精神障害と作業療法 新版	山根寛	三輪書店		
精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版	朝田隆	中央法規		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準作業療法学 精神機能作業療法学 第2版	小林夏子	医学書院		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害治療学 I		講義・演習	山本 翔太	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
脳血管障害の基礎知識と作業療法の流れ、評価法について学ぶ。知識と技術の獲得と両者の統合を目指す。				
授業の到達目標				
1. 中枢神経系の構造、機能について説明ができる。 2. 脳血管障害の概要(分類、機序、症状、予後)について説明ができる。 3. 脳血管障害に対する評価を列挙できる。 4. 脳血管障害に対する評価の意義、目的、方法について説明ができる。 5. 代表的な脳血管障害の評価を実施できる。 6. 脳血管障害に対する作業療法 (各期の役割、流れ) について説明ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	中枢神経系の構造と機能			
2	脳血管障害とは (機序、分類、症状、予後) ①			
3	脳血管障害とは (機序、分類、症状、予後) ②			
4	脳血管障害とは (機序、分類、症状、予後) ③			
5	脳血管障害の診断と治療			
6	脳血管障害に対するリハビリテーションの流れ①			
7	脳血管障害に対するリハビリテーションの流れ②			
8	脳血管障害に対する作業療法評価 (情報収集、意識、バイタルサイン)			
9	脳血管障害に対する作業療法評価 (運動麻痺)			
10	脳血管障害に対する作業療法評価 (筋緊張、腱反射、関節可動域)			
11	脳血管障害に対する作業療法評価 (感覚、筋力、脳神経)			
12	脳血管障害に対する作業療法評価 (バランス、上肢機能、高次脳機能)			
13	脳血管障害に対する作業療法評価 (基本動作)			
14	脳血管障害に対する作業療法評価 (ADL、脳画像)			
15	脳血管障害に対する作業療法評価 (まとめ)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%			
レポート・課題	20%	課題の理解度と提出によって評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他				
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版	山口昇 他編		医学書院	
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第6版	川平和美 編		医学書院	
脳神経疾患ビジュアルブック	森田明夫 編		Gakken	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
脳卒中最前線 第4版	福井圀彦 他著		医歯薬出版株式会社	
動画で学ぶ脳卒中のリハビリテーション	園田茂 編		医学書院	
自由記載				
備考				
作業療法評価では実技も交えながら講義を行う。				

令和8年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害治療学Ⅱ		講義・演習	山本 翔太	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
身体障害治療学Ⅰで学んだ知識、経験を基にして、脳血管障害の作業療法プログラムと、臨床的思考について学ぶ。ケーススタディを通して知識の総括と臨床的思考の練習を行う。				
授業の到達目標				
1. 脳血管障害の代表的な作業療法プログラムについて説明ができる。 2. ケーススタディを通して脳血管障害の統合と解釈、問題点の列挙、目標の立案、プログラムの立案ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	作業療法プログラム（意識障害へのアプローチ、関節可動域訓練、浮腫へのアプローチ）			
2	作業療法プログラム（ポジショニング、シーティング）			
3	ケーススタディ①（急性期の作業療法介入）			
4	作業療法プログラム（神経筋再教育、上肢機能訓練）			
5	作業療法プログラム（神経筋再教育、上肢機能訓練）			
6	作業療法プログラム（基本動作訓練）			
7	作業療法プログラム（知覚再教育、筋力増強訓練、全身持久力増強訓練）			
8	作業療法プログラム（物理療法、高次脳機能訓練、ADL訓練）			
9	作業療法プログラム（ADL訓練、IADL訓練）			
10	作業療法プログラム（ADL訓練、IADL訓練）			
11	作業療法プログラム（CI療法、ロボリハ、ボトックス療法）			
12	ケーススタディ②（回復期の作業療法介入：情報収集）			
13	ケーススタディ③（回復期の作業療法介入：問題点の焦点化）			
14	ケーススタディ④（回復期の作業療法介入：目標設定）			
15	ケーススタディ⑤（まとめ）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%			
レポート・課題	30%	ケーススタディにてレポートを作成する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他				
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版	山口昇 他編	医学書院		
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第6版	川平和美 編	医学書院		
標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版	能登真一 他著	医学書院		
脳神経疾患ビジュアルブック	森田明夫 編	Gakken		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
脳卒中最前線 第4版	福井国彦	医歯薬出版		
動画で学ぶ脳卒中のリハビリテーション	園田茂	医学書院		
作業療法 臨床実習とケーススタディ 第3版	矢谷令子 監修	医学書院		
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害治療学Ⅲ		講義・演習	中田 修	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
頭部外傷、筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギランバレー症候群、関節リウマチの特徴、機序、症状、予後、作業療法評価・プログラムについて学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 各疾患の概要（特徴、機序、症状、予後）について説明ができる。 2. 各疾患で行われる評価を列挙できる。 3. 各疾患で行われる代表的な評価を一部実施できる。 4. 各疾患に対する作業療法について説明ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	頭部外傷			
2	頭部外傷			
3	筋ジストロフィー			
4	筋ジストロフィー			
5	筋萎縮性側索硬化症			
6	筋萎縮性側索硬化症			
7	多発性硬化症			
8	多発性硬化症			
9	ギランバレー症候群			
10	ギランバレー症候群			
11	関節リウマチ			
12	関節リウマチ			
13	関節リウマチ			
14	関節リウマチ			
15	関節リウマチ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	教科書及び授業で配ったプリントの内容を問うテストを行うことで評価する		
レポート・課題				
小テスト	20%	各疾患の講義終了後に行う小テストの得点で評価する		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版	山口昇 他編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害治療学演習 I		演習・講義	井上 直樹	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
身体障害領域で行われる「①作業療法の治療原理」と「②疾患によらず必要とされる基本的治療方法」の2点について学び、知識に基づいた技術の獲得を目指す。				
授業の到達目標				
1. 各作業療法の治療原理について説明ができる。 2. 基本的治療方法について説明できる 3. 起居移乗動作の介助法を実施できる。				
授業計画				
回	内容			
1	関節可動域訓練：関節可動域訓練の種類			
2	関節可動域訓練：関節可動域訓練の原則			
3	関節可動域訓練：関節可動域訓練の実際			
4	関節可動域訓練：ROM制限因子			
5	筋力増強訓練：用語と定義			
6	筋力増強訓練：各訓練方法の理解と選択方法について			
7	筋力増強訓練：リスク管理			
8	介助方法の基本原則・寝返りの原理・介助および治療方法			
9	起き上がりの原理			
10	起き上がり介助および治療方法			
11	起立動作の原理			
12	立ち上がり介助および治療方法			
13	移乗動作の原理			
14	移乗介助および治療方法			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%			
レポート・課題				
小テスト	30%	前回までの授業の復習として、ペーパーテストを授業内に随時実施する		
その他				
自由記載	再試験は筆記試験の割合を100%として成績判定する			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版	山口昇 他編		医学書院	
標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版	能登真一 他著		医学書院	
新・徒手筋力検査法 原著第10版	津山直一 他訳		協同医書	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				
実技演習を行うため、動きやすい服装で出席すること。授業内容は前後することがある。				

令和8年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
精神障害治療学 I		講義	淡路 大致	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
精神障害分野での代表的な疾患に対する回復段階に応じた作業療法を実施するための知識や理論・実践を学ぶ。精神医学 I・II で得た知識を踏まえたうえで、各精神疾患の患者さんたちがどのような特性があり、どのようなことで悩んでおられ、そのため作業療法ではどのような支援が必要なのかと論理的に考えられることを目指す。				
授業の到達目標				
1. 精神障害領域の作業療法の治療構造を説明できる。 2. 代表的な疾患における各回復段階の作業療法について説明できる。 3. 代表的な疾患に応じた適切な作業療法実施について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	精神障害分野の作業療法構造①			
2	精神障害分野の作業療法構造②			
3	統合失調症の急性期作業療法①			
4	気分障害の急性期作業療法			
5	急性期治療実施計画			
6	急性期治療実施計画			
7	統合失調症・気分障害の急性期作業療法演習と振り返り			
8	急性期作業療法実施に対する振り返り			
9	統合失調症の回復期前期作業療法			
10	気分障害の回復期前期作業療法			
11	回復期前期実施計画			
12	回復期前期実施計画			
13	統合失調症・気分障害の回復期前期作業療法演習			
14	回復期前期作業療法実施に対する振り返り			
15	回復期後期作業療法・維持期作業療法			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	60%	到達目標の達成度で評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
その他	40%	実施計画書・演習内容で評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版	朝田隆		中央法規	
精神障害と作業療法 新版	山根寛		三輪書店	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
作業療法全書改訂第3版 作業療法治療学2 精神障害	富岡詔子・小林正義		協同医書	
自由記載				
備考				
精神医学 I・II の知識が不可欠なので予習・復習をしておくこと				

科目名		授業形態	担当教員名	
発達障害治療学 I		講義・演習	笹井 久嗣	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
発達障がいを持つ子どもへの作業療法を学ぶ。正常発達の知識を深め、臨床で使われる一般的な評価 (ADL・姿勢運動・上肢機能・感覚・視知覚など) を学ぶ。発達障がいの中でもASD, ダウン症, CP (PVL), MDなどの疾患についても講義を行う。発達障害領域の評価の基本的な考え方を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 発達障害領域における作業療法評価で用いる各種検査を挙げ、説明できる。 2. 発達障害領域の疾患について説明できる。 3. 障がいを持った子どもの姿勢分析ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	発達概念について (1)			
2	発達概念について (2)			
3	発達理論について (1)			
4	発達理論について (2)			
5	発達検査について			
6	姿勢反射/反応について			
7	正常運動発達について (1)			
8	正常運動発達について (2)			
9	正常運動発達について (3)			
10	正常運動発達について (4)			
11	脳性マヒ、ダウン症、筋ジストロフィー、二分脊椎、ASD、LDなどについて			
12	脳性マヒ、ダウン症、筋ジストロフィー、二分脊椎、ASD、LDなどについて			
13	神経学的評価について (1)			
14	神経学的評価について (2)			
15	まとめと解説			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
発達障害の作業療法	上杉雅之 監修		医歯薬出版株式会社	
イラストで分かる人間発達学	上杉雅之 監修		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
備考				
プリントを配布し、授業を行う。授業毎にリアクションシートの記入を行い、質問などに対して返答していく。授業の理解度を確認する確認問題なども行っていく。				

令和8年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
日常生活活動		講義・演習	岡田 誠暁	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
患者の日常生活活動（Activities of daily living ; ADL）の維持改善は、作業療法士が取り組むべき重要な課題である。この授業ではADLの基礎的知識、評価、動作別の特徴を学び、さらに疾患別のADLの特徴やその治療的介入方法について学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 日常生活活動について説明ができる。 2. 日常生活活動障害の評価ができる。 3. 疾患別の日常生活活動とその援助法について説明ができる。 4. 日常生活活動障害の原因を分析し解決策を導き出すことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション			
2	日常生活活動の評価			
3	コミュニケーション			
4	自助具・福祉用具について			
5	疾患別ADLについて 中枢性疾患 片麻痺①			
6	疾患別ADLについて 中枢性疾患 片麻痺②			
7	疾患別ADLについて 脊髄小脳変性症 パーキンソン病			
8	疾患別ADLについて 筋ジストロフィー 筋萎縮性側索硬化症			
9	疾患別ADLについて 関節リウマチ 脊髄損傷			
10	疾患別ADLについて 呼吸器疾患 切断			
11	日常生活活動訓練の実際 発表①			
12	日常生活活動訓練の実際 発表②			
13	日常生活活動訓練の実際 発表③			
14	IADL 社会生活行為			
15	授業のまとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	上記の授業の到達程度で評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
その他	20%	準備物・課題提出・グループ発表などの授業参加態度で評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
新版 日常生活活動（ADL）第2版	伊藤利之・江藤文夫 編	医歯薬出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準作業療法学 身体機能作業療法 第3版	山口昇 編集	医学書院		
自由記載				
備考				
予定は、前後変更する可能性がある。その場合は通知する。 実技・実習の場合は、実習室で行います。各種道具を使用するため協力して準備をしてください。				

令和8年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
老年期障害治療学 I		講義	岡田 誠暁	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
高齢化に伴い、疾患や障害像が多様化しており、作業療法のニーズが高まっている。ここでは、一般的高齢者の特徴を学んだ後、近年急激に増加している認知症について医学的知識を深め、作業療法士の役割を学ぶ。また、特に実践現場で多い疾患や排泄障害についての医学的知識を学んだ上で作業療法士の役割を学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 老年期の一般的特徴を説明できる。		5. 認知症の方への対応について説明ができる		
2. 高齢者との接し方について説明できる。		6. 排泄障害について説明できる。		
3. 老年期に多い疾患について説明できる。		7. 排泄障害への対応について説明ができる。		
4. 認知症の症状や特徴について説明ができる。		8. 高齢者体験を通して高齢者の気持ちが想像できる。		
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション 高齢者医療とリハビリテーション			
2	高齢化について 老年期作業療法の役割			
3	老年期作業療法の制度的位置づけ (介護サービス・住宅改修)			
4	老年期の特徴 加齢に伴う変化①			
5	老年期の特徴 加齢に伴う変化②			
6	老年期の特徴 加齢に伴う変化③			
7	老年期の特徴 高齢者体験			
8	フレイル・サルコペニア 高齢者と薬物療法			
9	高齢者へのアプローチ・接し方			
10	認知症の定義 MCI アルツハイマー型・レビー小体型認知症			
11	前頭側頭型・脳血管性認知症 その他認知症			
12	認知症の症状と理解 中核症状と周辺症状 概論			
13	認知症の症状と理解 中核症状と周辺症状 事例			
14	排泄障害と作業療法 排泄の仕組みとその対応			
15	排泄障害と作業療法 (オムツ体験)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%	上記授業内容に応じた試験により評価を行う。		
レポート・課題	20%	認知症・排泄障害のレポートで評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	10%	準備物や高齢者体験等への参加態度で評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
最新リハビリテーション基礎講座 老年学	荒井秀典・山田実	医歯薬出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
標準理学療法学・作業療法学 老年学 第5版	大内尉義	医学書院		
老年期の作業療法 改訂第3版	浅海奈津美・守口恭子	三輪書店		
自由記載				
備考				
授業の予定は、前後変更する可能性があります。変更の場合は随時通知する。				

令和8年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
観察実習		実習	嘉納 綾・岡田 誠暁 山本 翔太・井上 直樹・大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
45 時間（1 単位）		回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
観察実習では、2年前期までに学習した知識・技術を統合し、臨床の場で作業療法の実践を学ぶ。具体的には、実習施設において臨床教育指導者の臨床場面の見学を通し、どのような対象者がいて何を目標にどのような治療を実施しているのかを理解する。また、各施設における作業療法の機能・役割を理解する。				
授業の到達目標				
1. 実習生として適切な態度や行動をとることができる。 2. 経験したこと・学んだことを記録・報告できる。 3. 観察した事実から、個々の問題点を説明できる。 4. 施設・物品の管理の手伝いができる。 5. 施設の特性とその施設における作業療法士の役割を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
	オリエンテーション			
	観察実習			
	実習期間：令和8年8月26日～9月1日			
	実習施設：病院、老人保健施設など学校が依頼し決定した施設			
	実習形態：同一施設で臨床教育指導者の指導のもと作業療法実践現場や関係部署の見学を行う			
	詳細については、オリエンテーション時に伝える			
	実習セミナー			
	施設での作業療法士の役割や治療・介入の目的などについての発表			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題				
小テスト				
その他	100%	実習内容・実習セミナーで総合的に評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
令和8年度観察実習の手引き（神戸総合医療専門学校 作業療法士科）				
自由記載				
備考				
実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため、感謝と礼儀を忘れないこと。日頃から健康管理につとめ、特に実習期間は健康に留意すること。麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎の抗体値が基準を満たしていることが、実習に参加する条件である。				

科目名		授業形態	担当教員名	
作業療法特論Ⅲ		演習	大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
2年生の前期後半に行われる観察実習を見据えて、①正確な記録を行うこと②記録内容から考察すること③考察した内容を文章化すること④姿勢・動作分析を行えるようにすることの4点が可能となることを目指す。具体的には作業療法実践場面を観察し記録と言語化を行う課題を反復して行った後に、対象者の姿勢や動作を観察し記録する。また、観察した現象がなぜ起こっているのかについて作業療法の視点から記録と分析を行うことで臨床思考過程の一部を学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 医療人・社会人として望ましい考え方・態度をとる事ができる。 2. 問題（課題）に直面した際に適切な解決方法が選択できる。 3. 観察・経験した内容について説明ができる。 4. 学習した過程・内容を他者に具体的に表現できる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション/目標シートについて/IPEについて			
2	観察評価と記録の方法について：記録から考察するポイントを抽出し、文章化する			
3	考察した内容の文章化の方法			
4	思考内容を他者にわかりやすく伝える技術			
5	観察評価の演習：模擬症例の動画から観察と記録を行う			
6	観察評価の演習：模擬症例の観察結果から考察し、文章化と発表			
7	姿勢分析：臥位・座位・立位姿勢の分析			
8	動作分析（起立動作）：基礎と演習			
9	動作分析（起立動作）：演習と観察			
10	動作分析（起立動作）：動作分析の発表			
11	IPE①オリエンテーション、事例提示、課題理解と調査（グループワーク）			
12	IPE②調査内容の共有、まとめ（グループワーク）			
13	IPE③グループ発表、他職種への質問・深掘りしたい点の整理（グループワーク）			
14	IPE④事例に対する自職種の関わり・検査・支援内容を整理し、発表原稿の作成（学科で活動）			
15	IPE⑤全体発表			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	20%	IPEグループワーク20%、評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	80%	演習や発表の内容を40%、ポートフォリオ面接にて40%の評価を行う。評価基準は別途示す。		
自由記載		再試験は筆記試験とポートフォリオ再発表を行う。筆記試験60%、ポートフォリオ40%で評価を行う。		
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載				
備考				
授業の予定は、前後変更する可能性がある。変更の場合は随時通知する。				